



ベトナムのリゾートアイランド 「フーコック島」を楽しむ方法

東南アジアには、滞在型のバケーションを楽しみたい旅行者に人気の、比較的安価なアイランドリゾートがたくさんあります。美しい島で優雅なリゾートライフを満喫するだけでなく、独特のエキゾチックな体験もできます。私は、新型コロナウイルスが流行する前に、家族旅行でベトナムにあるアイランドリゾートを訪れました。生涯の思い出に残る、素晴らしいリゾート地に出会いましたので、皆様に紹介したいと思います。

リゾートアイランド「フーコック島」は、ベトナムとカンボジアの国境の沖合いに浮かぶベトナム最大の島であり、「ベトナム最後の秘境」といわれています。自然が豊富で、多様な水生生物が生息しており、多くのヨーロッパからのスキューバダイバーを魅了しています。鳴き砂が魅力のビーチリゾートとしても人気があり、日の入りが見られるビーチサンセットのロマンチックな景色は、カップルだけではなく、家族連れの人たちにも人気のスポットです。日本での知名度は低いかもしれませんが、素朴な雰囲気を数多く残しながらも、五つ星のリゾートホテルを含め観光施設も充実しており、小さなお子さんや、高齢者と一緒の家族連れの旅行者も快適な休暇を過ごすことができます。

私の家族旅行では、島の南側に位置する「JWマリオット・フーコック・エメラルド・ベイ・リゾート&スパ」に滞在することになりました。プライベートビーチがあることはもちろんのこととして、その独特な建築スタイルがホテル選択の決め手になりました。「1977年に設立された架空のラマルク大学」

をコンセプトに、ホテルファシリティは、フランスの大学を連想させるように構成されており、その内部は、ビンテージ感が溢れる装飾品に飾られております。特に、化学実験室を連想させる「デパートメント・オブ・ケミストリー・バー」の近くにあるお手洗いは、化学薬品の瓶が飾られ、壁には化学記号や構造が描かれており、独特の雰囲気を味わうことができます。生物工学が専門だった私にとっては、楽しかった大学生時代を思い出させるようなものでした。

このリゾートホテルでは、アイランドリゾートのお楽しみの一つである、水中アクティビティも堪能できます。プライベートビーチでは、透明感のある青く澄んだ海で遊べる、各種のアクティビティを提供してくれます。カヤックボード、サーフボード、SAP（スウォータースポーツボード）などの用品が充実していました。私は、SAPをとっても楽しみました。

お楽しみは、その他にもたくさんあります。レストラン、バー、ショップ、プール、



(ホテル内部の客室方向標識)



(客室建物の前に位置するランニングトラックとサッカー場)



(客室から見たビーチ風景)

スパ、ジム、ランニングトラック、フットボール場、レクリエーションルームなど、さまざまな施設が用意されていて、ホテルのエリア内だけで最高のリゾート感覚を味わうことができます。例えば、ランニングトラックでのモーニング・ランで一日を始め、フットボール場で子供と共にサッカーの練習をし、午後はプールやビーチで騒ぎ、夕方になるとスパで体をほぐし、その後、卓球やボードゲームを家族で楽しむといった夢のような一日を過ごすことができます。私の家族は、プールがとても気に入ったので、プールサイドの長椅子とテーブルで、ゆったりと夕暮れまでの時間を過ごしました。

ベトナム最大のこの島を楽しむ日帰りツアーも利用しました。目当ては全長7.9 kmの世界最長のケーブルカーで有名な「ホントム・ケーブルカー」です。フーコック島と隣のホントム島を結ぶロープウェイのゴンドラに乗りながら海を渡り、ロープウェイの中から海を見下ろす景色は圧巻でした。フーコック島は、世界一の胡椒生産地で、コショウ農園(ペッパーファーム)の見学もできます。現地で販売されている胡椒は、旅先の思い出をよみがえるお土産としてピッタリです。ナイトマーケットでは、豊富な地元の商品や食べ物を楽しめます。ローカルレストランでは、水槽に海で漁れた生きた魚が泳いでいて、そ

こから好きな海鮮をその場で選んで料理を注文することもできました。

フーコック島での休暇はとても楽しく、家族共通の思い出に残るものでした。海外旅行は、しばらくは厳しいかもしれませんが、規制が緩和されたら、今後もリゾートホテルを訪れて最高の休暇を過ごし、体も心もリラックスさせたいと思います。

皆様も、旅行先の候補として、このフーコック島ご検討いただければ如何でしょうか？

著者紹介



Ms. Charmaine Ow
(シャーマイン・オウ)

GIP ASEANマレーシアのシニア・パテント・エンジニア。1990年マレーシア、クアラルンプール生まれ。アメリカのインディアナ大学で生物工学を専攻し、2013年卒業。2017年にマレーシアの弁理士試験に合格し、特許・意匠・商標弁理士の資格を有する。2013年ピンタス・コンサルティング・グループに参加。2017年GIP ASEANのメンバーとなる。趣味は、読書、テレビ視聴、旅行、ズンバ。

編集者紹介



魯 佳瑛 (ノ・カヨン)

日本弁理士、新樹グローバル・アイビー特許業務法人所属。1981年韓国ソウル生まれ。ソウルの成均館大学卒業。2006年よりソウルの特許事務所での知的財産分野のキャリアをスタート。結婚をきっかけに来日。2014年日本弁理士試験合格。専門は、商標・意匠。